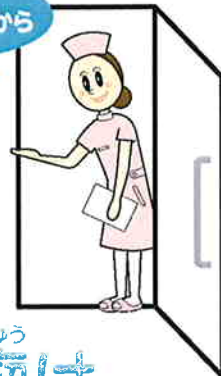


レディア ホームドクター



診察室から



「下肢静脈瘤は 切らずに治る？」

について



下肢静脈瘤は女性に多く見られる病気で、静脈が太くなって「コリコリ」のようになる循環不全のひとことです。ほこほこ盛りの上がって見た目に悪いただけでなく、脚が疲れやすい・むくむ・痛む・こむら返り、重症化すると静脈炎や皮膚炎から色素沈着を起し、潰瘍になることもあります。そのほか「スカートがはけない、旅先で温泉に入るときに恥ずかしい」という悩みを聞きます。

血液は心臓のポンプ作用で送り出され動脈を通じて全身へ流れます。そして、静脈を介して心臓に戻ってきます。下肢静脈瘤は血液が心臓に戻れなくなっている状態です。静脈の中の逆流防止弁が壊れて起る場合がほとんどで、溜まった血液により「静脈高血圧」になり、血が引き起こされて発症します。足の付け根と膝の後ろの弁が壊れる場合が多く、弁が壊れるとそこから下の弁も次々と壊れ、静脈の中に溜まった血液から染み出た水分で脚がむくみ、血管が押し広げられて瘤のように膨らんでいきます。

加齢とともに多くの方に発症することがわかっていますが、この病気に対する認識は一般の方はおちろん医師も含めて低いのが現状です。「年だから仕方がない」「治療するほどではない」「もっと酷くなったら治療しましょう」などと放置されている例も少なくありません。また、「入院期間が長い」「メスを入れるのが怖い」「古い治療情報で尻込みをされている方」も多いようです。最近では、通常、一週間程度の入院が必要とされるストリッピング手術（悪くなった静脈を引き抜く）も「日帰りので行う施設

があります。しかし、やはり「手術は怖い」と治療を尻込みされる方がいます。

このような方への朗報が1990年代に登場した「血管内治療」です。新しい視点からの治療法です。まずラジオ波を使う方法が開発されました。レーザーの熱エネルギーで血管を塞いでしまう方法で、日本では2002年から治療が始まっています。治療は約30分で静脈を穿刺してファイバーカテーテルを原因の場所まで挿入しレーザーを照射します。局所麻酔だけで治療ができるので自動車の運転も直後から可能です。残念ながら今のところ健康保険が適用されないのが自己負担はストリッピング手術よりは多くかかります。

今回、紹介した治療法は、専門的な知識と技術が必要な方法です。下肢静脈瘤でお悩みの方はぜひ一度、専門の医師へご相談ください。



解説医師
しよこく 諸國 眞太郎 先生

Profile

医療法人操仁会 岡山第一病院 院長
1981年岡山大学医学部卒業、同第二外科に入局。
1984年岡山大学附属病院講師。末梢動脈疾患、
下肢静脈瘤など血管外科に携わる。2000年より現職。「下肢静脈瘤日帰りセンター」[Vascular Lab]に積極的に取り組んでいる。

岡山市高屋343 TEL.086-272-4088
URL: <http://www.okayama-daiichi.jp>
e-mail: info@okayama-daiichi.jp

相談受け付けています

家族の病気のこと、女性ならではの体の悩みなど、医師に聞いてみたいことを、〒700-8834 山陽新聞社 広告局 企画開発室 「レディアホームドクター係」まで郵便でお寄せ下さい。メールで送る場合は ledya-doctor@sanyo.oni.co.jpへ、プライバシーは厳守いたします。

レディアホームドクターのホームページ

山陽新聞ホームページ(<http://www.sanyo.oni.co.jp/>)内にある特集のホームドクターをご覧ください。